

群 教 七	G02 - 03
	平29.265集
	社会 - 中

社会的事象について多面的・多角的に考え、 表現力を高める指導の工夫

——「シンキングシート」を活用したワールドカフェ型学習を取り入れて——

特別研修員 松島 崇志

I 研究テーマ設定の理由

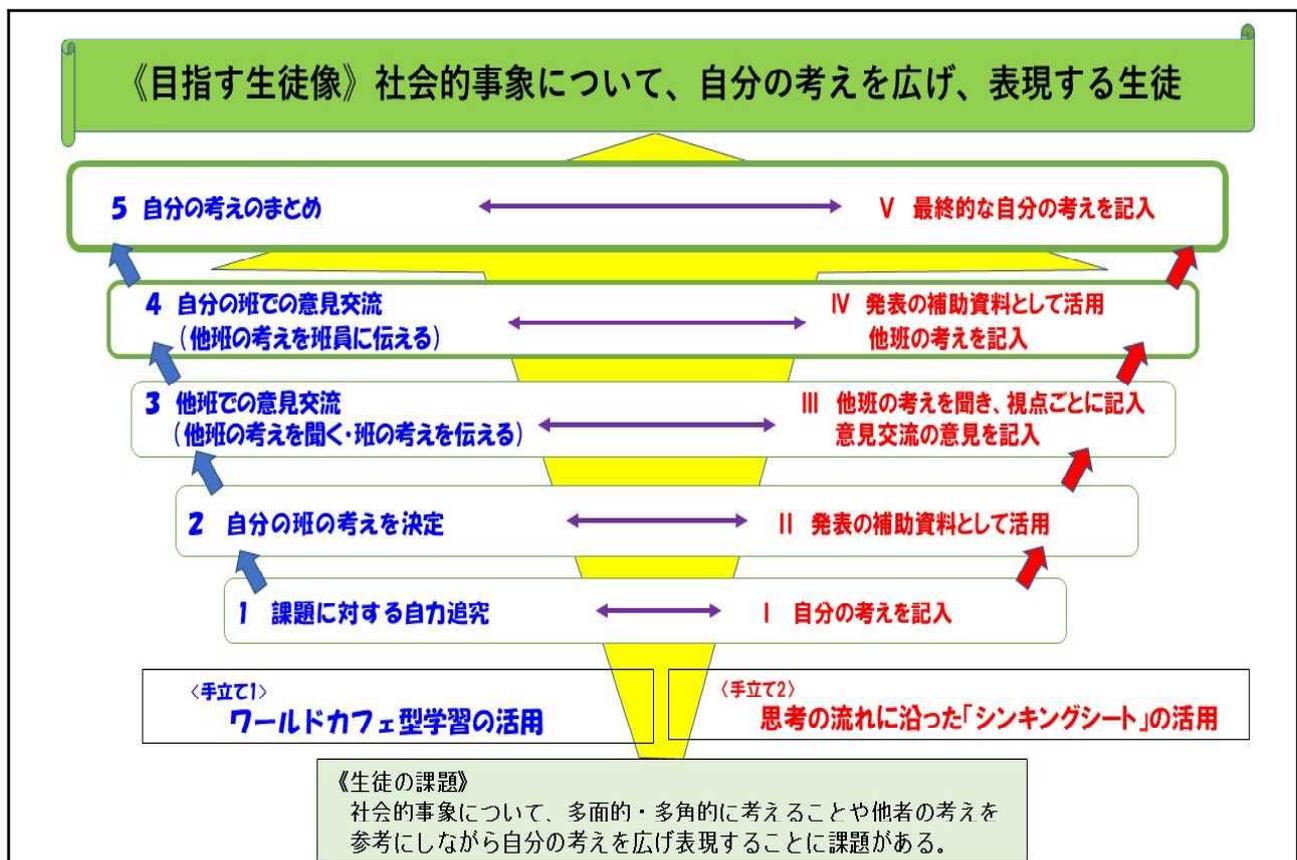
中学校学習指導要領（社会）では、公民的分野の目標として「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集，選択して多面的・多角的に考察し，事実を正確にとらえ，公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」と示されている。また、学校教育の指針（解説）には、群馬県の課題として、「必要な情報を取り出して自分の考えを述べたり、考えた方法や理由を説明したりすること」とある。これらのことから、既習事項を基に、社会的事象に対して生徒同士で多面的・多角的に考え、伝え合う授業展開が求められている。

所属校の多くの生徒は、基礎的・基本的な知識を理解したり、資料から必要な情報を選び読み取ったりする力を身に付けてきている。しかし、社会的事象に対して、多面的・多角的に考え、他者の考えを参考にしながら自分の考えを広げ表現することに課題がある。

このことを受け、思考の流れに沿った「シンキングシート」を活用しながら、様々な視点を持つ他者から考えを聞き、その考えを伝え合うワールドカフェ型学習を取り入れることで、社会的事象に対して多面的・多角的に考え、表現する力が高まると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

生徒が社会的事象について、多面的・多角的に考え、表現力を高めるために、次のような具体的な手立てを設定した。

手立て1 ワールドカフェ型学習の活用

手立て2 思考の流れに沿った「シンキングシート」の活用

手立て1のワールドカフェ型学習は、「①課題に対する自力追究②自分の班の考えを決定③他班での意見交流（他班の考えを聞く・班の考えを伝える）④自分の班での意見交流（他班の考えを班員に伝える）⑤自分の考えのまとめ」という過程を踏んで行う学習活動である。社会的事象について、既習事項や自分の経験を基に、カフェのような自由な雰囲気の中で意見交流し、他者の様々な考えに触れる。そして、最終的に自分の考えをまとめる。

手立て2として、よりワールドカフェ型学習を生かせるよう、思考の流れに沿った「シンキングシート」を活用し、様々な視点で考えを記入できる欄を設ける（図1）。また、発表の際、そのシートを補助資料として活用する。

ワールドカフェ型学習を通して、生徒は他者との意見交流をすることで、社会的事象について多面的・多角的に考え、自分の考えを広げることができると考える。また、全ての生徒が他者に考えを伝える役割があり、全員の発言機会を保障できることで、表現力の向上にもつながる。

次に、思考の流れに沿った「シンキングシート」を活用することで、様々な視点の考えを可視化することができる。そして、最終的に自分の考えを記入する際、このシートを参考にしながら多面的・多角的に考え、自分の考えを広げることができると考える。また発表の際、補助資料として活用することで、発表が苦手な生徒も自信を持って発言できると考えた。

☆学習課題☆ あなたは未来（2040年）の太田市長！ 太田市が発展するためには、 どのような政策がよいか考え、 提言しよう。				1 課題に対する自分の考え		2 自分の班の考え	
【視点1:高齢化】 ・政策・・・		【視点2:少子化】 ・政策・・・		【視点3:ブランド】 ・政策・・・		★班の政策★	
3 各班の考え（意見交流→○：利点 ▲：課題点）				4 他班の考え			
【各班の考え①】 視点：（高齢化） ・政策・・・ ○・・・ ▲・・・		【各班の考え②】 視点：（少子化） ・政策・・・ ○・・・ ▲・・・		【各班の考え③】 視点：（ブランド） ・政策・・・ ○・・・ ▲・・・		視点：（高齢化） ・政策・・・ ・政策・・・ 視点：（少子化） ・政策・・・ ・政策・・・ 視点：（ブランド） ・政策・・・ ・政策・・・	
5 自分の考えのまとめ（最終提言とその理由）							
【視点1:高齢化】 ・政策・・・ （理由や根拠）		【視点2:少子化】 ・政策・・・ （理由や根拠）		【視点3:ブランド】 ・政策・・・ （理由や根拠）			

図1 「シンキングシート」とその記入例

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1として、ワールドカフェ型学習を活用し、他者の様々な視点の考えに触れることで、生徒は多面的・多角的に考え発言することができていた。また、全ての生徒に他者の考えを伝える役割を与え、全員の発言機会を保障したことで、普段発言が少ない生徒も考えを伝えている様子が見られ、表現力の向上につながった。
- 手立て2として、思考の流れに沿った「シンキングシート」を活用し、様々な視点で考えを記入できる欄を設けたことで、多面的・多角的な考えを視覚的に捉えることができた。そして、最終的な自分の考えを記入する際、シートを参考に自分の考えを書くことができた。また、シートが他者に考えを伝える際の補助資料となり、発表が苦手な生徒も自信を持って発言することができた。

2 課題

- 手立て1では、個人差により意見交流の質に差が生じてしまった。今後も、話し合う視点や各自の役割を明確にしたワールドカフェ型学習の経験を繰り返し積んでいくことが必要であると感じた。
- 手立て2では、最終的な自分の考えを記入する際、「シンキングシート」に記入してあることをそのまま書いている生徒も見られた。シートを参考にしながらも、自分の言葉でまとめられるように、今後も様々な場面で自分の考えを表現する機会を設ける必要がある。

実践例

1 単元名 「地方自治と私たち」(第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、地方公共団体の政治の仕組みや地方財政など、地方自治の基本的な考え方について理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させ、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることをねらいとしている。

生徒には、基本的な地方自治に関する知識に加え、自分たちが住んでいる太田市についての理解を深められるようにする。そして、人口減少という課題から、太田市発展について考える活動を取り入れ、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら社会を生き抜く力や地域の問題解決を社会の構成員として主体的に担うことができる力を身に付けさせるようにする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治、地方財政の仕組みについて理解するとともに、太田市民の一人として、より良いまちづくりに積極的に参画する意識を高め、市の発展を意識した政策について自分の考えを広げることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	太田市の政治に関心を持ち、市が発展するための政策を意欲的に考え、提言しようとしている。
	社会的な思考・判断・表現	地方自治の考え方や太田市発展のための政策について、多面的・多角的に考察し、言語などで表現している。
	資料活用 の技能	様々な統計資料などから、太田市の課題や地方財政についての的確に読み取っている。
	社会的 事象について の知識・理解	地方自治の考え方や仕組み、地方財政の仕組みについて理解し、その知識を身に付けている。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・太田市民アンケートなどから、地方自治について興味を持つ。 【単元を貫く学習課題】 今後、太田市が発展するためには、どのような政策が良いか考え、提言しよう。
		第2時
課題 追究	第3時	・地方財政の歳出と歳入、太田市の財政の課題について、統計資料から読み取る。
	第4時	・「太田市人口ビジョン」などから、太田市の課題について考え、発表する。
	第5時	・未来(2040年)の市長になるという設定で、将来世代の立場から太田市発展のための政策提言を考える。
まとめ	第6時	・ワールドカフェ型学習を通し、各班の意見を聞き、自分の考えを広げる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第6時に当たる。第1時に、単元を貫く学習課題として「今後、太田市が発展するためには、どのような政策が良いか考え、提言しよう」という課題を提示した。その後、地方自治の仕組みや地方財政について学習し、第5時に、自分が2040年の市長という設定で、太田市発展のための政策を「少子化」「高齢化」「ブランド力アップ」の三つの視点から考えた。そして、三つの視点を各班に割り当て、班の考えとしてまとめた。

本時は、各班の考えを聞いたり、他班の考えを伝えたりするワールドカフェ型学習を通して、自分の考えを広げ、表現力を高めることをねらいとする。そこで、二つの手立てを具体化した。

手立て1

ワールドカフェ型学習の活用

各班のホスト役(説明者)が自分の班の政策を発表し、ゲスト役(訪問者)がその考えを聞き、意見交流を行う(3回繰り返す)。その後、ゲスト役が他班の考えを自分の班員に伝える。多くの考えを聞き、最終的に自分の考え(政策提言)をまとめる。

手立て2

思考の流れに沿った「シンキングシート」の活用

よりワールドカフェ型学習を生かせるよう、思考の流れに沿った形式（最初の自分の考え→他班の考え→最終的な自分の考え）にする。三つの視点（少子化、高齢化、ブランドカアップ）に対する考えをそれぞれ記入できる欄を設けるとともに、発表の際には補助資料として活用できるようにした。

4 授業の実際

本時は、「ワールドカフェ型学習を取り入れた意見交流を通して、太田市を発展させるための政策について、自分の考えを広げることができる」をねらいとして、授業を展開した。

(1) 他班での意見交流（ホスト：自分の班の考えを伝える ゲスト：他班の考えを聞く）

太田市発展のための政策として、多面的・多角的に考えられるように、「少子化」「高齢化」「ブランドカアップ」の三つの視点を意図的に設定し、視点ごとに班を振り分けた。班員の役割として一人がホスト役（説明者）となり自分の班の考えを説明し、残りの三人がゲスト役（訪問者）となり他班の考えを聞いた（図2）。その際、全ての班の考えを聞くことができるように、班員で相談し聞きに行く班を決めた。また、一人が三つの視点全て回ることができるように配慮した。その結果、ゲスト役は三つの班のホスト役から様々な視点の考えを聞き、視点ごとに「シンキングシート」に記入することで、太田市発展のための政策を多面的・多角的に考えることができていた（表1）。



図2 他班での意見交流の様子

表1 他班での意見交流後の「シンキングシート」記入例

・政策 ○利点 △課題点

各班の考え1（少子化）	各班の考え2（高齢化）	各班の考え3（ブランドカアップ）
<p>・ <u>子どもが産まれたら、習い事を二つ無料で受講できる。</u></p> <p>○子どもの学力や能力が高まる。</p> <p>○子どもを産むなら太田市が良いと考える人が増加する。</p> <p>△市が負担するお金がかかりすぎる。</p> <p>△習い事の受け入れ体制を整えるのが困難である。</p>	<p>・ <u>高齢者だけの地区（シルバーランド）を作る。</u></p> <p>○ユニバーサルデザインで暮らしやすい。</p> <p>○人との交流も盛んになり、協力して過ごせる。</p> <p>△費用がかかりすぎる。</p> <p>△高齢者だけでは心配な面がたくさんある。</p>	<p>・ <u>太田グルメパークを建設する。</u> (温泉や遊園地も併設)</p> <p>○子どもから高齢者まで楽しめる。</p> <p>○太田の名産を宣伝でき、県外からも多くの人を呼べる。</p> <p>△建設費が高そう。</p> <p>△金山をけずって建設すると、環境破壊につながる。</p>

また、意見交流では、カフェのような自由な雰囲気の中で、様々な立場から考えるなど、効率・公正の視点からその政策に対しての利点と課題点を考えることで、より多角的に政策を考えている様子が見られた（図3）。

図3 高齢者政策班の意見交流の内容（抜粋）

(2) 自分の班での意見交流（ゲスト役が他班の考えを班員に伝える）

ゲスト役は、三つの班で聞いてきた考えを班員に伝えた。ホスト役は、意見交流で出された意見を伝えた。その結果、全員が全ての班の考えを聞くことができその考えを「シンキングシート」に記入することで、生徒は多面的・多角的に考え、自分の考えをまとめる際に役立っていた。

ゲ1：財政が厳しいけれど、高齢者オリンピックの費用はどうするの。税金を上げる？

ホ1：それは課題の一つだけれど、様々な種目の競技を行い参加者を増やし、多くの高齢者の健康志向が高まることで社会保障費は抑えられると思う。

ゲ2：オリンピックを太田で行えば、ブランドカアップにもなり、多くのお客さんも来て経済効果も期待できるかも。

ゲ1：なるほど。 【ゲ：ゲスト ホ：ホスト】

また、全員に発表する機会を設けたことで普段なかなか発言できない生徒も発言する様子が見られ、表現力の向上にもつながった（次頁表2）。

表2 自分の班での意見交流後の「シンキングシート」記入例

少子化政策	高齢者政策	ブランドカアップ政策
<ul style="list-style-type: none"> ・20代で結婚すると、空き家ももらえる。 ・子ども一人につき、市民税が免除される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のオリンピックを開催する。 ・高齢者に自転車をこいでもらい電気をためる施設をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太田のPR動画を作成し、太田の名産品や名所を入れる。 ・20年太田に住むと地元企業の車をもらえる。

(3) 自分の考えのまとめ

単元の学習課題「今後、太田市が発展するためには、どのような政策が良いか考え、提言しよう」を振り返り、本時に聞いた多くの考えを参考に、最終的な自分の考え（政策提言）を三つの視点ごとに「シンキングシート」にまとめた。シートに9班全ての班の考えをまとめてあるので、生徒はそのシートを参考にしながら記入している様子が見られた。ワールドカフェ型学習を通し、視点ごとに多面的・多角的に考えることができ、全ての生徒が自分の考えを記入することができた。最初の記述に比べ、生徒の考えは広がりを見せていた（表3）。

表3 「シンキングシート」に記入した生徒の考えの変容 ・政策 () 理由

視点	最初の記述	→	まとめの記述
少子化政策	<ul style="list-style-type: none"> ・公園など、子どもが安心して遊べる施設をたくさんつくる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子ども一人につき、地方税が1割免除される。</u>(子どもを作ることをお金の面で諦めている人も多いと思うので、<u>経済的な援助を行えば効果があると思うから。</u>また、<u>太田に子育て世代が集まる。</u>)
高齢化政策	<ul style="list-style-type: none"> ・定年をなくし、たくさん働いてもらう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>高齢者プチオリンピックを開催する。</u>(<u>たくさん競技を開催することで参加者も増え、生き生きと生活する高齢者が増えるから。</u>また、<u>太田も有名になる。</u>)
ブランドカアップ政策	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りをを行い、人を集める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>20年以上太田に住むことを条件に、地元企業の車を1台もらえる。</u>(<u>太田の代表的な会社と連携し、インパクトある政策で太田をアピールでき、住居者も増えるから。</u>)

5 考察

授業の最後に行った生徒の振り返り（自己評価）では、①「ホスト役：自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができたか」「ゲスト役：他班の考えを聞き、班員に分かりやすく伝えることができたか」の問いに対して、100%の生徒が「できた」と回答した。②「様々な意見を聞き、自分の考えを広げることができたか」の問いに対しても、100%の生徒が「できた」と回答した。「シンキングシート」を見ても、全ての生徒が考えを広げた自分の最終政策を記入することができた。

ワールドカフェ型学習を取り入れた本研究を通して、生徒は、他者の様々な視点の考えに触れ、意見交流することで、多面的・多角的に考えることができ、考えに広がりを見せた。また、ホスト、ゲストの役割を与え、全員が他者に伝える活動や意見交流の機会を設けたことで表現力の向上にもつながった。

次に、思考の流れに沿った「シンキングシート」を活用したことで、生徒は多面的・多角的な考えを視覚的に捉えることができ、最終的に自分の考えをまとめる際、シートを参考にしながら記入することができた。また、シートを発表の際の補助資料として活用することで、発表が苦手な生徒も自信を持って発言することができた。「シンキングシート」を活用したことで、ワールドカフェ型学習の学習効果がより高まった。

さらに、自分たちが住んでいる太田という身近なテーマについて、ワールドカフェ型学習を通して考えることで、生徒たちは主体的に取り組むことができ、地域社会の一員としての社会参画意識も高まった。

一方で、個人差により、班の意見交流に差が生じてしまったり、「シンキングシート」に記入してあることをそのまま自分の考えとして書いてしまったりしている様子も見られた。今後、全員にホスト役を経験させるなど、さらにワールドカフェ型学習の経験を積ませたり、自分の考えを表現する機会を意図的に設けたりすることで、改善を図っていきたい。